

South Wind

サウスウィンド Sep. 2025 Vol.107

特集

ムスリムの暮らし、のぞいてみたら ～宮崎でともに暮らすムスリムの人々～



Contents/ 目次

特集 ムスリムの暮らし、のぞいてみたら ～宮崎でともに暮らすムスリムの人々～	2,3
宮崎県地域日本語教育体制整備事業	4,5
JICAデスク宮崎より ～アフリカで活躍するJICA海外協力隊～	6
宮崎県国際交流協会ニュース	7
INFORMATION	8

宮崎県に住むムスリム（イスラム教徒）が集う宮崎マスジド（モスク）の様子です。宮崎マスジドは、祈りの場であると同時に、ムスリムが交流する場や、イスラム文化にふれる窓口としての役割も果たしています。

- ・左：ムスリムの子どもたち
- ・右上：南アジアや中東、北アフリカの伝統装飾ヘナアート
- ・右下：日本・インドネシア・エジプト・パキスタンなど様々な国出身のムスリムたち



公益財団法人 宮崎県国際交流協会
<https://www.mif.or.jp>

特集 ムスリムの暮らし、のぞいてみたら

～宮崎でともに暮らすムスリムの人々～

最近、宮崎でもムスリム(イスラム教徒)の人たちを見かけることが増えてきました。「イスラム教」と聞くと、厳しいルールの中で、みんなが同じように暮らしているイメージを持つ方も多いのではないのでしょうか。しかし実際には、「ムスリム」と一口に言っても、育った国や家庭、またその人の信仰のあり方によって習慣や考え方は様々で、「暮らし」のかたちも実に多様です。宮崎に住む4か国出身のムスリムの人々の「ふだんの暮らし」や「文化」をのぞいて、ともに暮らすヒントを見つけてみましょう。

ムスリムってどんな人たち？



イスラム教を信じている人のことをいいます。ムスリムは、神(アラビア語で「アッラー」)を信じ、神の教えであるコーラン(イスラム教の聖典)と預言者ムハンマドの言行を大切にしています。そして、服装や食事、礼拝など、日々の暮らしの中で信仰を実践しています。世界には約20億人のムスリムがいるといわれています。ムスリム人口が最も多い国はインドネシアで、次いでパキスタン、インド、バングラデシュ、ナイジェリアと続きます。

インド出身 アンシーダさん 宮崎在住1年



どうして宮崎に来ましたか？

当初、イギリスの大学院で法律を学ぶ予定だったのですが、COVID-19の影響でビザ手続きが中断されてしまいました。そのため、私が育ったアラブ首長国連邦の大学院の修士課程で学ぶことにしました。その後、やはり海外でも学びたいという気持ちから、モスクが近くにある大学を探していたところ、宮崎国際大学に出会い、進学を決めました。実は3歳の頃から空手をしているのですが、空手は私の人生の一部であり、そのおかげで日本という国をずっと身近に感じてきました。宮崎に来てまだ日は浅いですが、ここにいると優しく迎え入れられているようで、どこか懐かしさを感じています。

宮崎での暮らしはいかがですか？

宮崎は親切な人が多く、とても暮らしやすいです。私は都会で育ったため、自然が多いところも気に入っています。大学の修士課程では国際コミュニケーションを学んでいます。また、モスクでムスリマ(女性のイスラム教徒)向けにコーランの勉強会を開いています。

あなたにとってイスラム教とはどのようなものですか？周囲の人にイスラム文化について知ってほしいことはありますか？

私にとってイスラム教は「平和」です。モスクは、まるで第二の家のような、心が落ち着く場所です。ムスリマはヒジャブ(スカーフ)を身につけていますが、それは決して強制されているわけではありません。私にとってヒジャブは、神様への信仰を表す大切なものです。ヒジャブをまとうことで心が穏やかになり、自分の進むべき道や内なる強さを感じることができます。また、時に息苦しく感じるこの社会の中で、ヒジャブは私に慎みや謙虚さ、自分を大切にしたい気持ちを思い出させてくれます。ムスリマがこうした思いでヒジャブを身につけていることを、少しでも知っていただけたらうれしいです。

インドネシア出身 アルさん 宮崎在住9か月



どうして宮崎に来ましたか？

インドネシアでは救急車の運転手をしていましたが、海外で働きたいと思い、日本に行くことを決めました。現在は技能実習生として建設業に従事していて、主に足場の組立や解体の作業を行っています。仕事は大変ですが、同じ会社にインドネシア人の後輩もいて、社長も優しい方なので、安心して生活できています。

休みの日は何をしていますか？

日曜日が休みで、月に2回は地域の日本語教室に通っています。日本人の先生方がとても親切に教えてくださるので、感謝しています。また、友人と一緒に、宮崎駅周辺や、南宮崎駅近くにあるインドネシアの食材が買えるお店にも行きます。外食をする時は、よくうどんを食べます。まだあまり宮崎を観光できていないので、いつか高千穂にも行ってみたいです。

お祈りや食事はどうしていますか？

早朝から夕方まで仕事をしているため、毎日5回、きちんと膝をついてお祈りをするのは難しく、家にいるとき以外は心の中で祈ることもあります。食事については、食品のバーコードを読み取ってハラールかどうかを確かめることができるアプリを使っています。仕事の日には、お弁当を作って持っていくます。また、家ではインドネシアのチャプチャイ(炒め物)をよく作ります。

宮崎にはどれくらい住んでいるの？



多民族多世代社会研究所の調査*によると、2023年末時点で宮崎には3,214人のムスリムが住んでいると推計されています。この中には日本人ムスリムも含まれますが、大部分は外国人ムスリムであると考えられます。同時期の宮崎における外国人の総数は9,752人であることから、外国人の約3人に1人がムスリムと推測できます。

*出典：店田 廣文「日本のムスリム人口 2024年」より



ハラールは、イスラム教の教えで「許されているもの・こと」を指し、「清潔で健全である」ことも重視されます。食べ物に関しては、豚肉やアルコール類を避けるというルールがあります。

お祈りや食事はどうしていますか？

近くにモスクもあり、大学にもお祈りの部屋があります。食事については、宮崎のスーパーでもハラールの食品が手に入りますし、スマートフォンの翻訳機を使ってラベルを確認できるので問題はありません。

日本で暮らしていて恋しくなる母国の料理を教えてください。

「ラスマライ」はインドの伝統的なデザートで、牛乳から作った柔らかいチーズ(パニール)を小さく丸めて形を整え、甘いシロップで軽く煮たものです。これをカルダモンで香りつけた甘くてクリーミーなミルクに浸し、ナッツをトッピングして仕上げます。ふんわりとやわらかく、口の中ですとろけるような食感が特徴です。



ラスマライ

ラマダンのときはどのように過ごしていましたか？

ラマダンの期間は断食をしていました。ラマダン明けの祭りは、インドネシアではレバランといって正月にあたり、長い休みがあります。今年は、宮崎に住む友達と一緒に「バソ(肉団子のスープ)」や「オポールアヤム(鶏肉のココナッツ煮込み)」を作って食べました。

インドネシアのレバランについて教えてください。

ラマダン月が明けると、モスクに行って朝のお祈りをします。その後、まず親に挨拶をします。この1年間に自分がしてしまった過ちを謝り、「今年1年もよろしくお祈りします」といった気持ちを伝えます。さらに、兄弟や近所の方々にも挨拶をし、家族や親戚と特別な伝統料理「グライ(ココナッツ風味のカレー)」と「クトゥパット(ヤシの葉で包んだちまぎ)」を食べます。日本と同じように、子どもにお年玉を配る習慣もあります。グライとクトゥパットは日本ではなかなか食べる機会がないので、帰国したら一番に食べたい料理です。

ラマダンは、イスラム教の神聖な月で、敬虔さと自制心を高めるため、日の出から日没まで断食を行います。食べ物への感謝や思いやりの気持ちを深める期間でもあり、小さな子どもや妊婦、病気の人などは断食が免除されます。



グライ



クトゥパット

バングラデシュ出身 ミザンさんご家族 宮崎在住1年7か月



宮崎での暮らしはいかがですか？
お子さんは学校でどのように過ごしていますか？

宮崎での暮らしはとても快適です。皆さんとても親切で、困ったことがあると助けてくれます。特に同じ研究室の仲間は、車がない私たち家族をいろいろなところへ連れていってくれます。宮崎で一番気に入っているのは青島海岸です。海がとても美しいですね。休みの日は、家族で近所の公園に遊びに行ったりしながら、のんびりと宮崎での生活を楽しんでいます。息子が小学校に通っているのですが、あっという間に日本語を習得し、休みの日も学校に行きたいと言っているくらいです。学校ではハラルに対応した給食を出して下さいますし、先生方も優しいです。運動会などのイベントに行くのも毎回楽しみにしています。

日本に来て驚いたことはありますか？

日本に来る前、友人が「日本人は、まるでイスラム教の教えに従っているかのように生活しているんだ」と話してくれました。当時はどうしたことだろうと思ったのですが、実際に日本に暮らしてみ、その言葉の意味を実感し、驚きました。日本人の礼儀正しさや思いやり、慎ましさには、イスラム教の教えと通じるものがあると感じます。宗教や特別なルールに従って生きているわけではないのに、こうした生き方が自然にできている日本人は、本当に素晴らしいと思います。私の妻は目以外の顔全体を覆うニカブを着用していますが、日本ではジロジロ見られたり、何かを言われたりすることがほとんどありません。そうした社会の姿勢も、日本で安心して暮らせる理由の一つです。

あなたの国の料理の中で、特に好きなものを教えてください。

私が好きなバングラデシュの食べ物は、スパイスの効いたごはんとお肉を重ねて炊いた、南アジアの混ぜごはん料理「ピリヤニ」です。私は料理が趣味でいろいろなものを作りますが、ピリヤニは特別な日の料理で、**イード**(祭り)や誕生日など、お祝い事があるときに食べます。また、ミルクで煮た細い小麦の麺(ヴァーミセリ)を甘く仕上げたデザート「シャアマイ」もイードの時に作ります。



牛すね肉を使ったピリヤニ



イードのときにモスクでふるまったシャアマイ



イードは、ムスリムにとって大切なお祝いの日で、家族や友人とごちそうを食べたり、お祈りをしたり、助け合いの心を大切にする日です。イード・アル・フィトル(断食明けの祭り)とイード・アル・アドハー(犠牲祭)の2つがあります。

「Peaceful Event」

<https://www.youtube.com/@peacefulevent/featured>



宮崎にいる間に挑戦したいことはありますか？

宮崎にいる間に日本語の勉強をしたいです。今はわからないことがあると息子に聞いたりしていますが、日本語ができるとさらに生活がしやすくなると思います。また、日本の暮らしや料理の動画をYouTubeにあげていて、去年は干し柿づくりにもチャレンジしました。このチャンネルも充実させたいです。

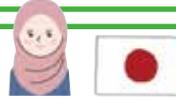


宮崎県の**モスク**(宮崎マスジド)は、宮崎市木花にあります。クウェートからの寄付などによって2022年にオープンしました。



宮崎マスジド

日本出身 すみれさん



イスラム教に入信したきっかけを教えてください。ご家族の反応はどうでしたか？

インドネシア人の友人と接するうちに、イスラム教に興味を持つようになりました。その後、モスクで様々なお話を聞くなかで、日本の文化と共通する部分が多いことにも共感し、イスラム教に入信しました。現在は、モスクでコーランやアラビア語を学んでいます。私の家族は無宗教なので驚いていましたが、理解してくれました。

モスクでは様々な国出身の方々と交流していると思いますが、いかがですか？

子どもたちとは日本語で会話をしながら一緒に遊ぶことができ、とても楽しいです。ムスリマの方たちは自分の国の料理を作ってきてくれて、とても美味しく、貴重な体験になっています。また、コーランの読み方を教えてくれるアンシーダ先生にも感謝しています。日本にいながら自分で勉強するのはとても難しいので、クラスがあるのはとてもありがたいです。そして、モスクにすることでアラビア語や英語の会話の練習にもなるのでうれしいです。いつかは実際にアラビア語圏やイスラム圏の街に行って生活することが一つの目標になりました。

宗教的な場所

ムスリム同士が
つながる場所

イスラム文化に
ふれる窓口

宮崎マスジドはこんなところ

※「マスジド」はアラビア語でイスラム教の礼拝所を意味します。「モスク」は、この「マスジド」から派生した言葉です。

ここは宮崎県唯一のモスクなので、県内の様々な地域に住むムスリムの心の拠り所となっています。また、モスクではイベントも開催しており、毎年ラマダンの時期には、地域の方にも日没後の断食明けの食事会に参加していただいています。

2025年のラマダン(3月)は、①インドネシア、②バングラデシュ、③アラブ/アフリカ、④アフガニスタン/パキスタン/インド/ミャンマーの4つのコミュニティが各週末を担当し、国の料理をふるまいました。



1 お祈りの部屋



2 ラマダン月の日没後の食事会



3 ムスリムの子どもたち



4,5 宮崎県内から集まる様々な国出身のムスリムたち



6 イスラム圏の食文化を楽しむイベント



イスラムは、平和と愛、協力を大切にする宗教です。宮崎マスジドでは、地域の皆さんと友情と理解の架け橋を築きながら、その精神を実践していきたいと思っています。一年中、交流イベントを予定していますので、どなたでもぜひお越しください。一緒に調和の中で歩んでいきましょう。



宮崎県地域日本語教育体制整備事業

宮崎県では、文部科学省「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用し、令和元年度より地域日本語教育の体制整備事業を行っています。事業の運営は、(公財)宮崎県国際交流協会に委託されており、当協会において地域日本語教育に関する事業を実施しています。

令和6年度から8年度はこちらの3つの指針のもと、様々な取組を行っています。



令和7年度の取組

1 関係機関と連携した地域日本語教育体制の整備

- 総合調整会議の設置
- 地域日本語教育コーディネーターの配置
- 市町村日本語教育担当者研修の実施
- 総括コーディネーターの配置
- ひなたにほんご交流会の開催
- 市町村が実施するニーズ調査の側面支援
- 外国人材雇用事業所への周知の強化

総括コーディネーター

市町村や関係機関等と連携し、事業全体の企画・進捗把握・連絡調整・評価・改善等を実施します。

また、地域日本語教育コーディネーターと連携して域内の日本語教育プログラムに対して指導・助言を行います。



山崎晴果CO

地域日本語教育コーディネーター

宮崎県内の地域日本語教室において、市町村と地域の関係機関をつなぎ、プログラムの編成を行ったり、日本語教師や日本語学習支援者への指導・助言を行ったりしています。

現在、宮崎県には二人の地域日本語教育コーディネーターが配置されています。



吉元愛美CO



坊菌絵里子CO

ひなたにほんご交流会

地域の日本語教育現場で活躍する日本語教師や日本語学習支援者、日本語教育に興味のある方なら国籍を問わずどなたでも参加できる交流会です。地域の日本語教育について現場の声を共有したり、宮崎県の地域日本語教育の推進のために意見交換したりしています。

日時:令和7年11月29日(土) 14:00~16:30

場所:宮崎県企業局庁舎1階県電ホール

内容:宮崎県の地域日本語教育、外国人住民のエンパワーメントについて

※詳しくは、10月下旬に「ひなたにほんごナビ」にてご案内します



講師講演



意見交換会

R6年度の様子

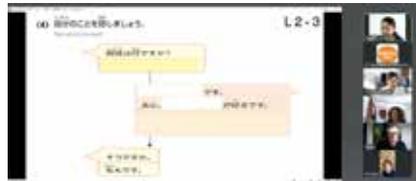
2 学習機会の確保・充実に係る取組

- 日本語講座(オンライン・対面)の実施
- 日本語スピーチコンテストの開催
- 市町村が実施する地域日本語教室への支援
- 日本語教育に関するポータルサイト「ひなたにほんごナビ」での情報充実

ひなたにほんごオンラインクラス

宮崎県に住む外国籍の皆さんが、どこからでも日本語を学べるオンラインクラスです。夏と秋に開催しており入門から初級まで、レベルに合わせたクラスを用意しています。

これまでに150人以上の外国人住民が受講しています。受講者から「暮らしの質が上がった」「近所の人ももっと話せるようになった!」「自信を持って話せるようになった」といった嬉しい声がたくさん届いています。これからも、皆さんの生活日本語学習をしっかりサポートしていきます!



ひなたにほんごナビ

宮崎県内の地域日本語教育に関する情報が掲載されているポータルサイトです。やさしい日本語に加え、4言語(英語・中国語・韓国語・ベトナム語)で見ることができます。ぜひアクセスしてください。



地域日本語教室

「地域日本語教室」は、外国人住民が日本語での交流をととして生活に必要な日本語を学ぶ教室です。

今年度は、宮崎市・延岡市・西都市・国富町・新富町の5市町で全8回開催します。くわしくは、「ひなたにほんごナビ」にて紹介しています。

西都市総務課・危機管理課、
地域日本語教育コーディネーター、
日本語教師、宮崎県国際交流協会が連携して
「西都市地域日本語教室」を運営しています!



日本語スピーチコンテスト

日本語スピーチコンテストは、例年2月頃に開催しており、外国籍の皆さんが、普段の日本語学習の成果をスピーチで発表する機会を提供します。くわしくは、「ひなたにほんごナビ」で紹介しています。



3 日本語教育人材の確保・育成に係る取組

- 日本語学習支援者講座の実施
- 日本語教師向け研修の実施
- 日本語教育・多文化共生入門セミナーの実施

日本語学習支援者講座

外国人住民の日本語学習支援を希望する方を対象として、支援にあたる心構えに係る実践的研修等を実施します。



日本語教師向け研修

地域日本語教育の第一線で活躍する講師を迎え、地域日本語教室や講座の指導に役立つスキルや知識を身に付けることができる研修です。(受講対象は有資格者です)



宮崎県国際交流協会の 地域日本語教育チーム



TICAD9 2025年8月20日～22日 横浜で開催！

TICAD（ティカッド）とは「Tokyo International Conference on African Development（アフリカ開発会議）」の略。日本とアフリカ、国際社会の指導者が、アフリカ開発のあり方と具体的な取り組みを議論・合意する国際フォーラムです。日本政府が主導し、今年9回目の開催を迎えました。国際社会が複合的な危機の最中にある今、開発途上国、とりわけアフリカ諸国の関与強化が重要となっています。今回は、アフリカで活躍する JICA 海外協力隊員より、現地からの声をお届けします！

エチオピア・沓掛堅也さん(職種:理科教育)



休み時間に集まってくれる8年生男子

በኔና ጌሰጥልኝ (テナイストウリン) こんにちは！

2024年8月からエチオピアに赴任しています。同年の3月までは、宮崎県延岡市の公立中学校で理科教諭として勤めておりました。宮崎県宮崎市で生まれ育ち、宮崎のことが大好きな私ですが、今はエチオピアの方たちと一緒に、遠く離れた地で活動しています。

★エチオピアってどんなところ？

エチオピアは、宮崎から約9800km離れた東アフリカに位置します。首都はアディス・アベバで、標高が2500mの世界で3番目に高い首都です。また、内陸国なので海がなく、宮崎の海が恋しくなる毎日を過ごしています。コーヒーやマロンなど世界的にも有名なものも多く、たくさんの魅力が詰まった国です。

★活動内容



薬品の変化に興味を示す8年生

私は、アディス・アベバにある公立小学校で活動しています。7・8年生（日本の中学1・2年生相当）の理科の授業に関わり、実験を用いた授業を行えるようにサポートしています。薬品や顕微鏡などを初めて見たり触ったりする子どもたちは、いつも興味津々で授業に臨んでくれます。その姿を見ると来てよかったなと心から思うことができます。

ただ、約1年間の活動を通して、いくつかの課題も見えてきました。現地には限られた種類や量の教材しかありません。また、先生方自身も実験をしたことがないため、実験に関する十分な知識や技術をお持ちでない状況があります。それらを解決することが活動校への貢献だと考え、今は先生方へのワークショップを行ったり現地の物を使った実験器具の作成をしたりすることに力を入れています。慣れない英語とアムハラ語を使いながらですが、これからも継続していきたいと思えます。宮崎での経験で得た知識や技術を伝えることが、エチオピアの方にとっての何かしらのきっかけとなると信じて活動していきます。

セネガル・奥濱恵理苗さん(職種:獣医・衛生)



遊牧民の村にて。遊牧前に日陰争いをしている羊たち。

اَسْلَامُ عَلَيْنَا (アッサラーム アライクム) こんにちは！

宮崎県川南町生まれの私が、ひよんな事からセネガルに来て10カ月。日々驚きにあふれた生活をしています。

★セネガルってどこやねん

セネガル共和国はアフリカ大陸の西側、海沿いにある国です。ライオンが横向きになったような形をしていて、口の中にはガンビアという別の国が挟まっています。首都はダカールです。車好きの方なら、パリ・ダカールラリーの終着点といえばピンと来るかもしれません。

★畜産事情

セネガルの町中を歩いていると、人と同じくらい山羊が闊歩しています。牛舎なんてある訳がなく、木の枝で作った囲いに入れたり、牛・山羊・羊と共に何か月間も遊牧して生活する民族もいます。宮崎で家畜防疫に携わっていた私にとって、ここは前提が違いすぎて面白い場所です。

★お・も・て・な・しの国セネガル

お昼過ぎに町中を歩いていると、どこからか「カーイ！アニュー（ご飯食べにおいで）」と声をかけられます。セネガルでは【テランガ】というおもてなし文化が根付いており、初めて訪れた人にも温かく歓迎してくれます。お昼ご飯に大皿を囲んで一緒に食べる時には、家族は勿論、その場にいた友人や、近くを通りかかった人にも声をかけます。

プレゼントしたお菓子も、一口食べて私におすそ分けしてくれたり。言葉の壁につまづくことは多いですが、誰であっても当たり前のようにテランガができる国民性にいつも助けられています。

いかがでしたでしょうか。セネガルについて、少しでも身近に感じていただければ大成功です。それでは Ba beneen yoon（バベネンヨーン）また今度～！



セネガルではお昼ご飯が1番豪華。手やスプーンを使って食べます。



JICAのアフリカでの取り組みは
こちらからご覧ください→

JICAのこと、国際協力のこと、お気軽にお問い合わせください。
JICAデスク宮崎 西村真由美



宮崎県国際交流協会ニュース



●次の講座を開催しました●

国際ふれあいチャット 前期

6月～8月に、国際ふれあいチャット前期（英語・中国語・韓国語：各全6回）を開催しました。

英語チャットは、様々な国出身の外国人ボランティアと参加者が3～4名のグループに分かれ、ボランティアの出身国の文化や参加者の趣味などについて英語でおしゃべりを楽しみました。

中国語・韓国語チャットは、県国際交流員を中心に、中国や韓国出身のボランティアと一緒にテーマに沿って話をしながら、中華圏や韓国の文化を学びました。



韓国語チャット

運転免許技能試験対策ディスカッション

6月28日(土)に「運転免許技能試験対策ディスカッション」を開催しました。

講師の方からは主に技能試験で減点されるポイント（右折・左折の仕方）を中心に解説いただきました。熱意のこもったアクション付きの分かりやすい説明に参加者のみなさんが何度もうなずいている姿が印象的でした。日本の交通ルールを学び、早く合格できますように！



宮崎市地域日本語教室

6月22日(日)に、宮崎市地域日本語教室を開催しました。

地域日本語教室では、11か国の外国人住民19名と日本語の学習のサポートを行う学習支援者11名の計30名が参加されました。

4つのグループに分かれ、防災に関する知識を日本語を用いた交流を通して学びました。当日は、段ボールベッドの組み立てやテントの設置、非常食の試食体験など様々な体験を協力しながら行っていました。



にほんごサロン「きらり」in 新富

7月13日(日)ににほんごサロン「きらり」in しんとみ(新富町地域日本語教室)を開催しました。

外国人学習者8名と日本語学習支援者18名の約26名が参加されました。

学習者が浴衣の着付けを学び、日本の夏の文化を体験するとともに、日本の夏の文化について日本語で話したりしました。



日本語学習支援者講座

6月～7月に日本語学習支援者講座(全5回)を開催しました。

学習支援者には、学習支援者の役割、やさしい日本語、学習者との接し方を事前に学び、新富町の地域日本語教室で、支援者としての役割を実践していただきました。



日本語教師向け研修

8月2日(土)に日本語教師向け研修の基礎編が開催され、宮崎県内で活動する日本語教師16名が参加しました。NPO法人 CINGAの新居みどり氏を講師に迎え、日本語教師として必要な心構え、多様な社会や学習者への向き合い方、指導姿勢などについてワークショップ形式で学びました。参加者は今後の実践に役立つヒントやエネルギーを得ました。応用編は来年2月14日に開催予定です。



宮崎県国際交流協会では毎月、「国際交流員とおしゃべり会」を開催しています。イギリス出身のキャサリンさん、シンガポール出身のユーディンさん、韓国出身のヘジョンさんと、外国語や日本語でおしゃべりしませんか？おしゃべり会のスケジュールは、当協会 HP や Facebook、情報紙 Plaza News でお知らせしています。皆さまのご参加をお待ちしています！

ちよっぴといき

スタッフ 曾地 紘和

先日、こどもからじゃんけんをしようと言われた。受けて立った私の前に、こどもが出してきたのは見慣れない手だった。親指を立てて、ちょうどサムズアップ（グッドのジェスチャー）のような形である。

初めは、どの手にも勝てるずい手を勝手に作って出してきたのかと思ったが、聞けばこれはインドネシアのじゃんけんで実際にある手らしい。この手は「ゾウ」を表しており、他にも、小指を立てると「アリ」、人差し指を立てると「人」を表す手があるそう。ゾウは人に勝ち、人はアリに勝ち、アリはゾウに勝つというルールとのことだった。アリはゾウの耳に入るから勝つという勝敗の概念が新鮮である。

国は違えどもじゃんけんにあたるものが存在し、3すくみの状態であるところは日本と同じなのだと思っていた矢先、次にこどもが出してきたのは、人差し指と親指で輪を作ったような、またしても未知の手。フランスに存在する「井戸」という手らしく、いわゆる日本のグーチョキパーにあたる石・

ハサミ・葉と、この手を加えた4つの手で行うとのこと。井戸は石とハサミに勝てるのに、石はハサミにしか勝てないという不平等さもまたユニークである。

こどもはこれらの知識をマンガで覚えてきたようだが、その中では5すくみや11すくみ状態のものも紹介されていた。火、水、オオカミ、悪魔、スポンジ…手を覚えるだけでも一苦労だが、これもアメリカで実在するものさそうだ。

国際の分野で働いていながら子どもにも海外の知識を教わった悔しさは残るものの、シンプルな遊びの中にも多様なバリエーションがあることを知ったとともに、国境を越えたコミュニケーションツールとしての可能性も感じられた出来事だった。



インドネシアのじゃんけん

INFORMATION

開催予定の講座・イベント情報 ※詳細はHPをご覧ください

■ 国際理解講座 キルギス編

「知られざる国キルギスの文化と物語」

日時：10月11日(土) 14:00～16:00

場所：宮崎市中央公民館 小研修室

定員：24名

※申込方法につきましては当協会HPをご覧ください。



■ 第20回アートフェスティバル「外国人が見た宮崎」作品展

1. 日時：9月27日(土) 11:00～16:00

場所：宮崎公立大学 附属図書館 クロスラウンジ

※ワールドテラス 宮崎インターナショナルフェスタにて展示

2. 日時：10月2日(木)～10月25日(土)

10:00～19:00 ※日、月、祝日は休み

場所：カーリーノ宮崎 地下1階 交流スペース

3. 日時：1月7日(水)～1月16日(金)

8:30～18:00 ※土、日、祝日は休み

場所：宮崎県防災庁舎1階



※1, 2の作品展における来場者の投票で最優秀作品が決まります！

JICAデスク宮崎からのお知らせ

JICA海外協力隊 秋募集

【応募資格】20歳～69歳までの日本国籍を持つ方

【応募期間】2025年9月12日(金)～10月14日(火)

※応募&職種チェック&その他質問は

LINE公式アカウント(@jica_kyoryokutai) から！

また、海外協力隊webサイトもご覧ください。



みやざき外国人サポートセンターからのお知らせ

みやざき外国人サポートセンターでは、県内在住の外国人のみなさんからの生活に関する相談を対面・電話・メール・オンライン(ZOOM)で受け付けています。詳しくは下記までお問合せください。

みやざき外国人サポートセンター

宮崎市橋通東4-8-1 カーリーノ宮崎地下1階

TEL:0985-41-5901 FAX:0985-41-5902

E-mail: support@mif.or.jp URL: https://support.mif.or.jp



☆ 賛助会員 入会のご案内 ☆

会費：個人会員 年間 1口 2,000円 団体会員 年間 1口 10,000円

特典：協会発行の定期刊行物「ブラザニュース(日・英・中・韓)」・「South Wind」等の提供、協会開催事業の案内、協会開催講座の参加割引、協会HPから団体HPにリンク可能(希望団体のみ)

 South Wind サウスウィンド
Sep.2025 Vol.107



企画・編集 公益財団法人 宮崎県国際交流協会 第107号 2025年9月発行

〒880-0805 宮崎市橋通東4-8-1 カーリーノ宮崎地下1階 TEL.0985-32-8457 FAX.0985-32-8512

● URL <https://www.mif.or.jp/> ● E-mail miyainfo@mif.or.jp

情報・意見などをお寄せください。

外国人との交流会など、国際交流に関する催しを計画している団体やサークルの情報をお待ちしています。当協会・本誌に対する意見・要望もお待ちしております。



開館時間：火～土 / 10:00～19:00
休館日：日・月・祝日・12月29日～1月3日